

## 2019・中学校「星の旅人：伊能忠敬と伝説の怪魚」

□この本を選んだ理由は、だからです。

□伊能忠敬については、少しだけ知っていました / あまり知りませんでした / 話を聞いたことがありました /  
本を読んでみて、だと思いました。 / と感じました。

□江戸時代に地図をつくるということは、  
だと思いました。

□もし私が忠敬の測量隊に入って旅をするとしたら、  
だと思いました。

□忠敬は 56 歳から 15 年間にわたって測量のため、ほぼ日本全国を自分の足で歩いて旅をしました。  
歩いた距離は 3 万 8000 キロを超えて、地球一周に近い距離を歩いたことになります。それは / 私なら /  
だと思いました。 / と感じました。

□忠敬は、一次測量で奥州街道から北海道東南部を測量し、二次測量で太平洋側の関東・東北地方東部を測量  
します。三次測量で日本海側の東北西部を測量します。四次測量は東海・北陸地方を測量します。毎年のように  
測量の旅にでかけて、その成果を「日本東半部沿海地図」としてまとめます。たたみ 300 枚の大きさの地図は  
美しく、精密だと評判になりました。一から地図を作ることは、  
だと思いました。 / と感じました。

□その後西日本の測量もされ、「大日本沿海輿地全図」としてまとめられました。衛星写真で撮影したように  
日本列島の形がきちんと測量によって地図になっていました。完成の前に忠敬は亡くなってしまいましたが、  
地図は「伊能図」と呼ばれ、忠敬の名前が地図の名前として残りました。明治期には「伊能図」を元にした地図が  
道路や鉄道の建設などに役立つことになります。今、私たちがあたりまえに地図を使って、便利に生活ができる /  
道に迷うことがないことは だと思えます。

□この本を読んだことで、昔の人が作り上げたことで私たちの生活が豊かになっているということがある  
と思うように / 考えるようになりました。たとえば、(身近な道具や技術など / 車、電話、テレビなど) は、  
技術が向上する / 品種改良する / 精度が上がる ことで、より豊かな生活ができているのだと思いました。

□そして、今後自分が学んで、さらに技術が向上 / 品種改良 / 精度を上げることで、これからの人たちの生活を  
だと思いました。 / と感じました。

□これからは忠敬を見習って、と思いました。